

## 地域の公園整備に取り組んで

長野県木曾山林高等学校 3年 ○ 内山 ちひろ  
2年 牛山 淳

### 要 旨

本校は平成13年（2001年）に創立100周年を迎えます。そこで、創立100周年記念事業を実施することになり、創立100周年記念事業実行委員会では地域に役立つ事業はないかと考え、木曾福島町の関山公園整備と王滝村と三岳村にまたがる牧尾ダム周辺の公園整備に取り組みました。

### はじめに

私たちの学校を簡単に紹介します。私たちの学校は明治34年に創立された全国で最初の林業専高校です。戦後、昭和23年に長野県木曾山林高等学校に改称し、林業科2クラス・工芸科1クラスとして再スタートいたしました。その後、昭和42年に林業科は2学年よりコース制（経営・土木・林産コース）の導入、昭和48年に工芸科をインテリア科に改称しました。

そして現在、林業科は森林科学・土木工学・情報流通・環境の4コース、インテリア科は生産工学・情報デザインの2コースに分かれて学習をしています。全校生徒数333人の小規模校です。

（写真-1）



### 1 経 過

創立100周年を迎えるにあたり、100周年記念事業実行委員会が組織され記念事業の計画をたてることになりました。記念誌の発刊、記念館の建設、庭園整備などの事業のほか、地域に何か残せることや、自然に対する問題意識の高揚と上下流域の人達の水問題を考える場としての記念事業はできないものかと考えて、地域の公園整備事業に取り組むことになりました。

そして、木曾福島町の関山公園整備と王滝村と三岳村にまたがる牧尾ダム周辺に桜の植樹をしようということになりました。

#### （1）牧尾ダム

牧尾ダム周辺は水資源開発公団のご協力をえて、この水を利用している愛知県の方々との交流

も含めた緑化を企画しました。昨年はサクラ・シラカバなどをダム周辺に植栽し公園的利用や県道沿いの景観緑化を行いました。今後はダム全体のサクラ並木をつくる予定です。(写真一)



## (2) 関山公園

関山公園は日本3大関所の背景林として、現在一部児童公園に利用されていますが、全体的に利用計画をたて直し、新しいイメージの自然と歴史の学習ができる公園にしていこうと本校と木曾福島町が共同して行う事になりました。町よりやや小高い所に位置するため、やや利用しにくい状況にあります。今でも毎日少しずつ人々が利用しているので、様々なニーズから関山公園の整備をすることで、より多くの町民や自然と歴史の探訪者が訪れることを望んで計画をたてました。

この計画の基本的な考え方に4つのコンセプトを設けました。第一に樹木と薬木やハーブの名前を覚えながら自然観察をしたり体験をする学びの森、第二にレクリエーションや自然休養のための遊びの森、第三にキノコや山菜やハーブなどを観察したり採取したりする収穫の森、第四にまわりの森や林と自然的調和を保つ自然環境調和の森としました。(写真一)

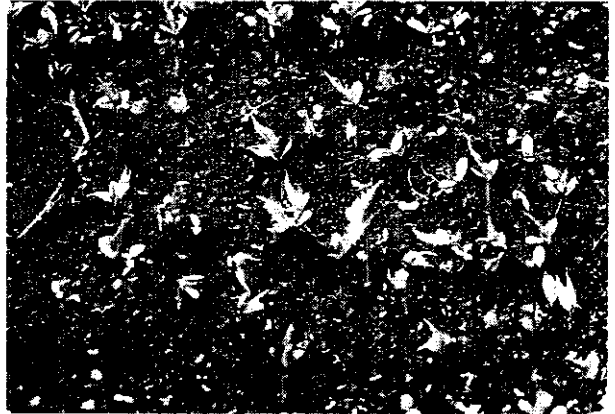


### (3) 作業の経過

#### 1) 桜の苗木生産

計画の立案中に植栽が予定される桜の苗木が必要となるため、故人と成られた蘇門会坂下支部長の畑中氏が集めてくれた、各地のオオヤマザクラのタネを播いて苗木養成に取り組み始めました。病気に強いオオヤマザクラですが、できるだけ花の色が鮮やかできれいな親木から採取したタネを使用しました。現在、約800本くらい育苗しています。

(写真-4・5)



#### 2) 下刈り・除伐作業

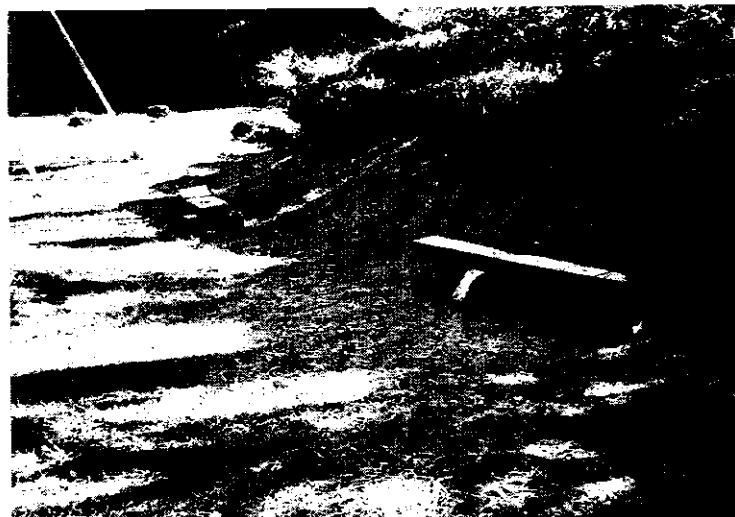
1年生による夏の総合実習で下刈りと除伐をしました。関山公園は過去に一度町の事業で公園化されましたが、整備が一部行き届かず、桜の苗木も十分に育たず花もきれいに咲きませんでした。私たちがつる切りや下草を刈り払ったことで、桜の木も元気に生長するようになり、花をたくさんつけるようになり始めました。その後何回か授業の中で下刈りと除伐を実施しました。(写真-6)



### 3) ハーブ園とベンチの設置

ハーブは学校で栽培したものを公園内に見本園を10カ所作成して植え付けました。  
町の人がいつでも自由に採取できるように考えて設置しました

ベンチは生徒が学校の演習林より間伐したヒノキ材を使って、図面から組み立てました。  
た。(写真-7)



### 4) 遊歩道の整備・鳥の巣箱設置

遊歩道の丸太と鳥の巣箱も学校の演習林より間伐したヒノキ材を使ってつくりました。そして、総合実習の時間に整備や設置をしました。(写真-8・9)



## 5) 観察プレート設置

プレートは生徒が手作りした木製のものと業者から購入したものを使用しました。  
(写真-10・11)



## 2 結果

今まで下刈り・除伐による林内整備、遊歩道の整備を終えてきましたが、平成12年の11月に蘇門会と木曾福島町の関係者50人と生徒20人が集まり(写真-12)、桜の苗木、薬木・薬草の植栽記念のイベントを実施しました。様々な整備をしてきましたが、地域の人達にも取り組みの様子を知ってもらおうと新聞にも取り上げてもらいました。(写真-13)

実施した作業内容は、桜や50種類の薬木を植栽し、生徒が作成したプレートと共に公園全体に配置しました。また、公園内にある樹木の観察プレートも70本設置しました。植樹が済んだあとに薬剤師会の小谷さん(長野県製薬勤務(写真-11))に、薬草や薬木の講話を20分ほどしていただきました。そして地元の薬剤師会もこの公園の森が薬樹の森として利用できるように、協力していただけることを約束いただきました。

この事業で公園として利用範囲の広がりを見せ、一段と学習の森のイメージを引き立てることができたと思います。



おわりに

この事業は地域のたくさんの人たちが利用することによってはじめて成果として表れるので、遊歩道の整備や下草刈りや除・間伐など林内の環境整備を毎年継続して実施していくつもりです。そしてこの場所が体験学習の場や町民の憩いの場として利用され、桜の名所になってくれることを願っています。何年後かに訪れたとき立派に整備された関山公園を見ることができれば幸いです。

# 木曾山林高 来年創立百年に



創立100周年記念の関山公園整備事業でコウヤマキを植える木曾山林高校の卒業生と在校生

## 卒業生記念の植樹

県立木曾山林高校（木曾郡木曾福島町）の卒業生と在校生ら約七十人が五日、同町関山公園一帯に樹木約百二十本を植えた。同校は来年が創立百年。記念事業として、卒業生らが労力と時間を提供して、関山公園と水資源開発公団牧尾ダム（同郡三岳、王滝村）周辺を植樹などで整備していく計画だ。町民の憩いの場となっている同公園の植樹が第一歩だ。

## 木曾福島のパークに

### 牧尾ダム周辺にも 地元への「恩返し」

同校の同窓会「蘇門会」を中心とする百周年記念事業実行委員会が、地元木曾では、記念事業費八千万円のうち二カ所の整備事業に五百万円ずつを充てる、としている。

関山公園にはコウヤマキ、ヒノキ、オオヤマザクラなど約百二十種類の植物を順次植栽していく。五日は、参加者が四カ所に分かれてその一部を植樹し、植物名を書いたプレートを立てていった。今後は歩道整備なども予定している。

実行委員長の村井定男・蘇門会会長も「木曾福島町」は「林業を学んだ卒業生として、植林を通じ、地元の景観整備に役立ちたい。木々を植えて整えた関山公園が、将来は在校生たちの造園分野の実習場所になることを期待している」と、夢を話している。

同校は一九〇一（明治三十四）年、「西筑摩郡立乙種山林学校」として開校。これまで八千人余の卒業生を送り出している。来年十月六日に創立百周年の記念式典を開く予定だ。

谷への「恩返し」として計画を進めている。今年二月の記念事業の寄付呼び掛け